

8
下
聖徒伝 167

「朝は来て 再び夜が来る」

イザヤ書20～22章 幻の谷

アウトライン

0. イントロダクション

I. 裁きの器・アッシリア 20章

II. バビロンへの裁き 21章

III. ユダへの裁き 22章

IV. まとめと適用

真実を見極められる方をこそ

恐れよう





【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

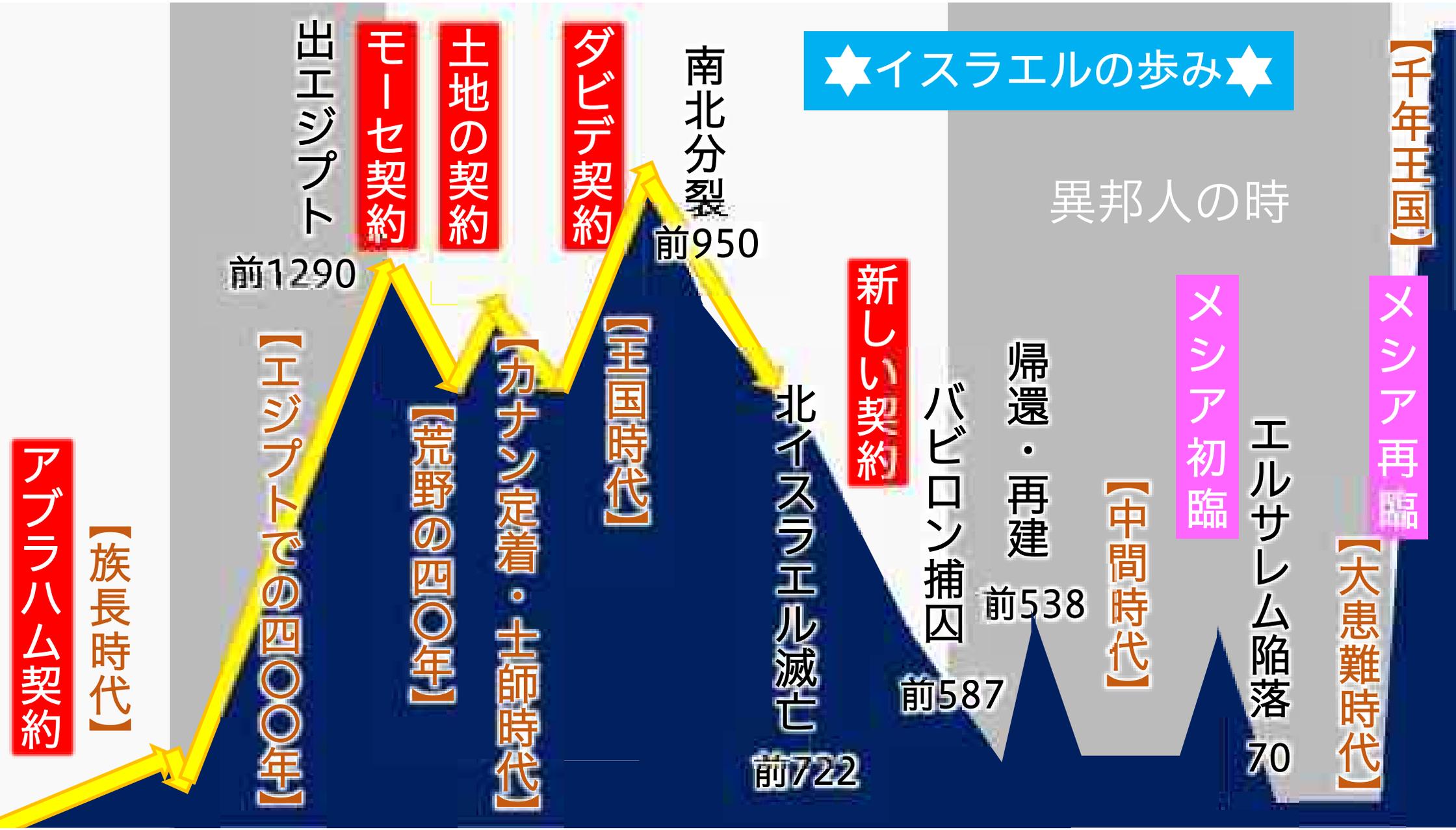
神の約束こそが
その時代の守り

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

【王国時代】

北イスラエル滅亡
前722

バビロン捕囚
前587

帰還・再建
前538

【中間時代】

エルサレム陥落
70

メシア初臨

【大患難時代】

メシア再臨

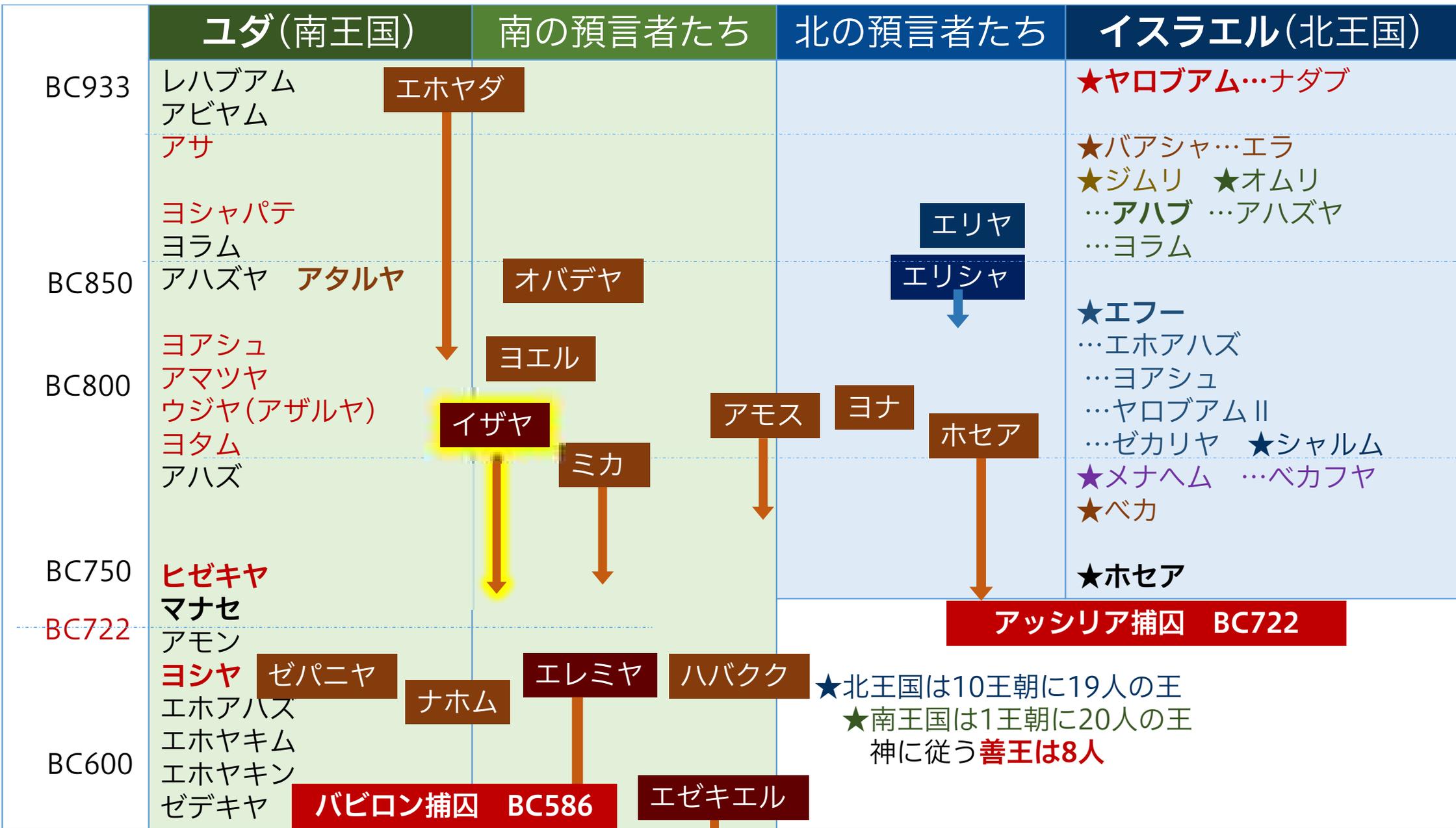
【千年王国】

異邦人の時

預言者イザヤとは？

- イザヤ = “ヤハウエは救い”
- エルサレムの都で活動。
- 60年に渡り、4人の王に仕えた。
ウジヤ → ヨタム → アハズ → ヒゼキヤの時代。
- 遣わされたのは、拒まれる前提の過酷な試練。
「行って、この民に告げよ。『聞き続けよ。だが悟るな。見続けよ。だが知るな』と。イザヤ6:9」





北王国イスラエル

南王国ユダ

ホセア

アモス

ベカ 20年

ホセア 9年

混沌の時代

アッシリア捕囚①

アッシリア捕囚②

滅亡の時代

ヤロブアムⅡ 41年

ゼカリヤ 6ヶ月

シャルル 1ヶ月

メナヘム 10年

ベカフヤ 2年

南北時代の最盛期

ヨナ 29年

アマツヤ ♡

ウジヤ ♡ 52年

ヨタム ♡ 16年

アハズ ☠️ 16年

ヒゼキヤ ♡ 29年

ミカ

イザヤ

【預言者視点で見る預言書は、こんな感じ？ 実際は？】



諸国民(異邦人)の裁きも経路は同じ



南北時代



① 直近の
苦難

メシア初臨



② 主の日
大患難時代

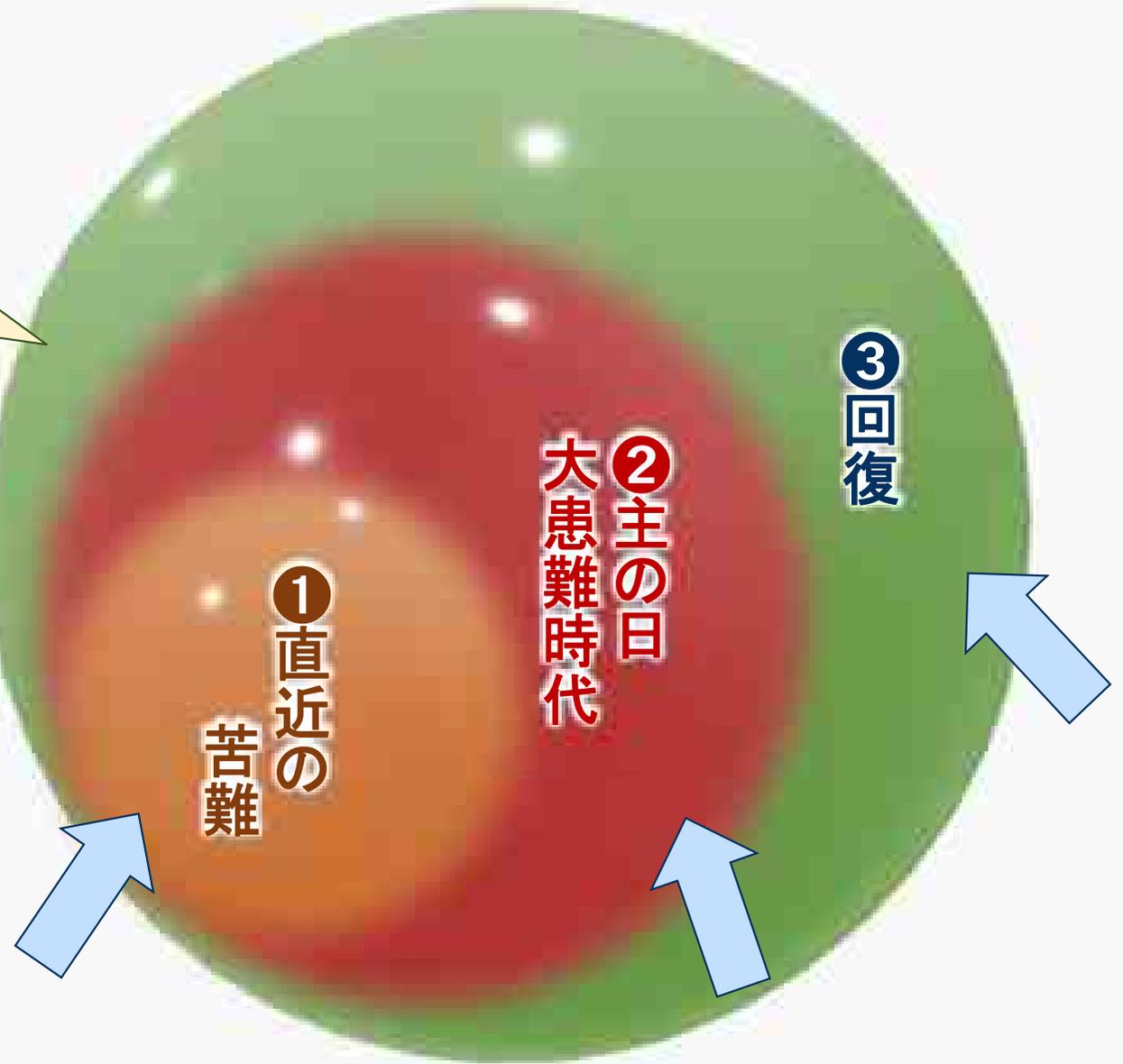


③ 回復
メシア再臨

3Dで預言を捕らえる

シームレスな
かたまりとして
とらえよう

見る角度で
違う時代が
浮き上がる





1. 裁きの器・アッシリア

イザヤ書20章

アッシリア絵巻

アッシリア



アッシリアの最盛期と重なるイザヤの活動

- 古代から存在。BC10～7世紀の新アッシリア後期に世界帝国に。
- BC722年。北王国・イスラエルを滅ぼす。**(アッシリア捕囚)**
- BC671年。エジプトを侵略。オリエントを初めて統一。

裁きの器・アッシリア 侵略 イザヤ20:1

アッシリアの王サルゴン*によって派遣されたタルタンが、アシュドデ*に来て、アシュドデと戦って、これを攻め取った年のこと。

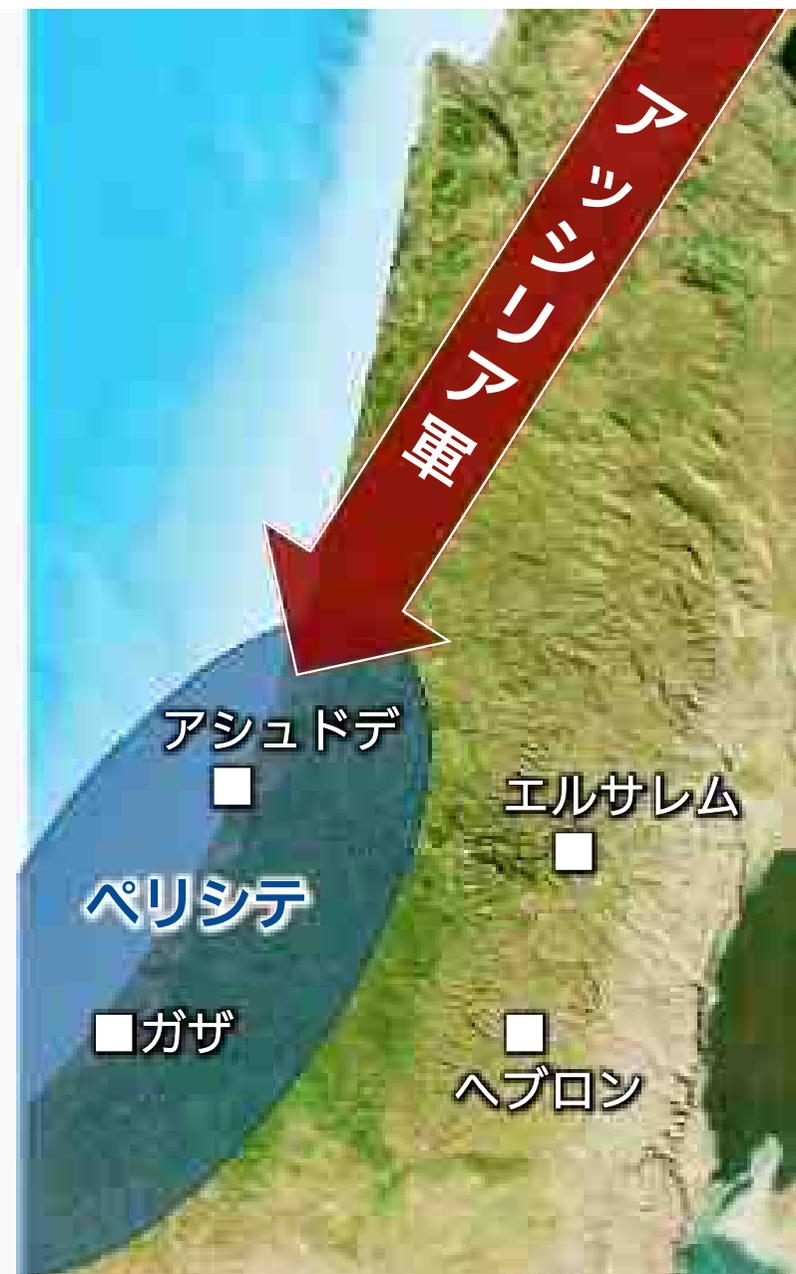
*サルゴン2世。先王シャルマネセル5世が、すでに北王国を滅ぼしている。

*都市国家連合ペリシテ

五大都市の北方の都

■ユダの積年の仇敵ペリシテもやられた。

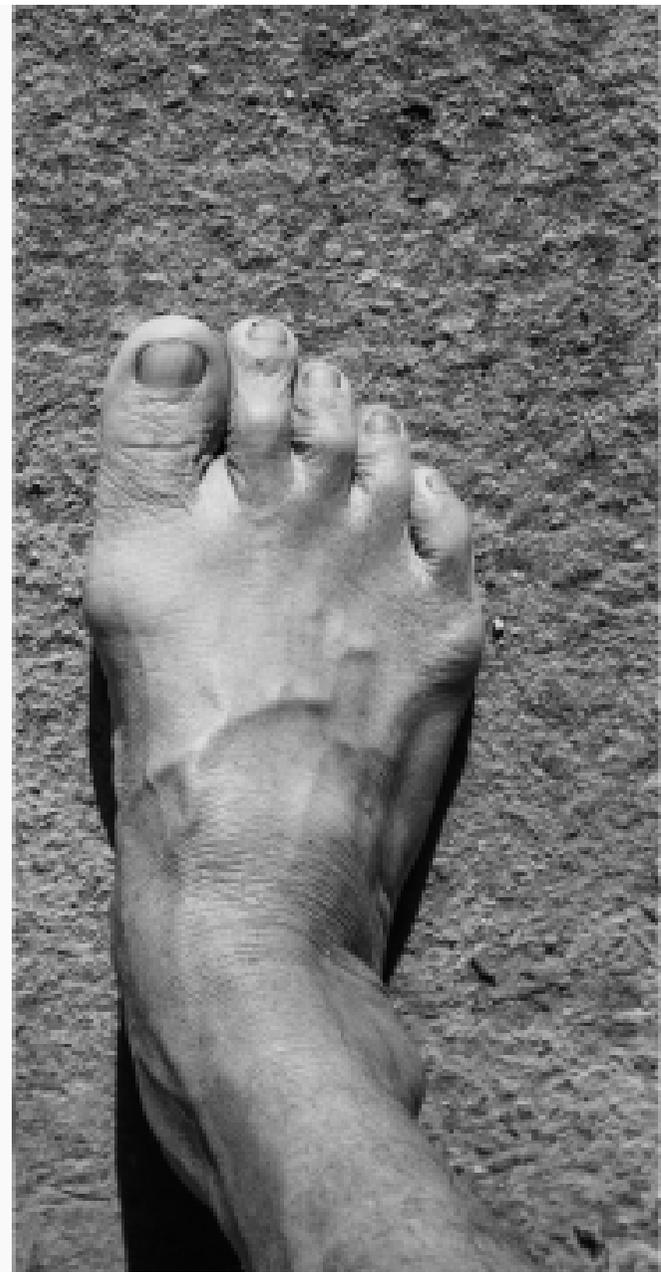
➔いよいよエルサレムも危ない!!



裁きの器・アッシリア 裸足で イザヤ20:2

当時、【主】はアモツの子イザヤによって、すでにこう語っておられた。「行って、あなたの腰の粗布を解き、あなたの足の履き物を脱げ。」彼はそのようにし、裸になり*、裸足で歩いていた。

*肌着一枚だろう。屈辱的なのは間違いない。



裁きの器・アッシリア

イザヤ20:3~4

【主】は言われた。「わたしのしもべイザヤが、エジプトとクシュに対するしるし、また前兆として、三年間裸になり、裸足で歩いたように、そのように、アッシリアの王はエジプトの捕虜とクシュの捕囚の民を、若い者も年寄りも裸にして、裸足のまま、尻をあらわにして、エジプトの恥をさらしたまま連れて行く。」

■ アッシリアのエジプト侵略は、BC671

→ イザヤの死後。ヒゼキヤ後、マナセ時代。

「外国に頼るな、主に立ち返れ」



裁きの器・アッシリア 恥 イザヤ20:5~6

人々は、クシュを頼みとし、エジプトを誇りとしていたゆえに、打ちのめされ、また恥を見る。

その日、この海辺の住民*は言う。『見よ。アッシリアの王の前から逃れようと、助けを求めて逃げて来たわれわれの拠り所がこの始末だ。われわれは、どうして助かることができるだろうか』と。』

*ペリシテ(ユダも含む?!)

■エジプトに依り頼んだペリシテは(ユダも)、アッシリアのエジプト侵略に絶望する。



数十年後に実現!!

アッシリア浮彫



II. バビロンへの裁き

イザヤ書21章

バビロン・イシュタル門

バビロニアとは？

- 古代から興亡を繰り返した東の大国。
- アッシリアに支配される(BC728)。
→ イザヤ時代のバビロニアは弱小国
- アッシリアの首都ニネベを陥落(BC612)。
- バビロン捕囚(BC586)、南王国を滅ぼす。
- ペルシャによって滅亡。(BC539)



バビロンの裁き 侵略 イザヤ21:1~2

海の荒野*についての宣告。ネゲブに吹きまくるつむじ風のように、それは荒野から、恐ろしい地からやって来る。

厳しい幻が私に示された。裏切る者は裏切り、荒らす者は荒らす*。エラム*よ、上れ。メディア*よ、囲め。すべての嘆きを私は終わらせる。

*バビロンのこと。海 = アラビア湾。

*バビロンの所業への報い

*共にバビロニアの同盟国



目の前のアッシリアを
すっ飛ばして、
バビロンの侵略と滅亡が!!

バビロンの裁き 戦慄 イザヤ21:3~4

それゆえ、戦慄が私の腰に満ち、子を産む時のような苦しみが私をとらえる。私は心乱れて、聞くことができない。恐ろしさのあまり、見ることができない。

私の心は迷い、戦慄が私を襲った。私が恋い慕った**たそがれ***も、私をおびえさせるものとなった。

*あまりに悲惨なバビロニアの滅亡!!

➔世界帝国となったバビロニアは、ペルシャによって滅亡。BC539



アッシリアの戦車

バビロンの裁き 油断 イザヤ21:5~7

彼らは食卓を整え、座席を並べて、食べたり飲んだりしている。

「立ち上がれ、首長たち。盾に油を塗れ。」

主は私にこう言われた。「さあ、見張りを立たせ、見たことを告げさせよ。戦車や二列に並んだ騎兵、ろばに乗る者やらくだに乗る者を見たなら、よく注意を払わせよ。」

- 堀に囲まれたバビロンは、ペルシャ陥落寸前まで油断し、宴会に浸っていたと言われる。



アッシリアの軍隊

バビロンの裁き 吉報 イザヤ21:8~9

その人は、獅子のように叫んだ。「主よ。私は昼はいつも見張り場に立ち、夜ごとに自分の物見のやぐらについています。

見てください。今、戦車や兵士、二列に並んだ騎兵が来ます。彼らは互いに言っています。『倒れた。バビロンは倒れた。その国の神々の、すべての刻んだ像も地に打ち砕かれた』と。」

- バビロン捕囚が、130年後。
バビロン滅亡は、200年後。



バビロンの裁き 希望 イザヤ21:10

踏みにじられた私の民、打ち場の私の子らよ。
イスラエルの神、万軍の【主】から聞いたこと
を、私はあなたがたに告げたのだ。

■ 130年後、バビロン捕囚でユダは滅亡。

→ 70年の捕囚の間、イザヤの預言は、
イスラエルの民に**解放の希望**を与え続けた。



エドムへの裁き 続く夜 イザヤ21:11

ドマ*についての宣告。セイルから私に叫ぶ者がある。「夜回りよ、今は夜の何時か。夜回り*よ、今は夜の何時か。」

夜回りは言った。「朝は来る。また夜も来る。尋ねたければ尋ねよ。もう一度、来るがよい。」

*“沈黙” = エドム。…エサウの末裔。
セイル山が領地。

*ここでは神の番人・預言者のこと。

■ユダはバビロンから解放されるが、
エドムには夜が続く。解放の時は来ない。



イスラエルの滅亡を
喜び、便乗したため!!

アラビアの裁き 逃亡者 イザヤ21:13~15

アラビアについての宣告。デダン人*の隊商よ、アラビアの林に宿れ。

テマ*の地の住民よ、渴いている者を迎えて水をやれ。逃れて来た者にパンを与えよ。

彼らは剣や抜き身の剣から、張られた弓や激しい戦いから逃れて来たのだから。

*アブラハムの後妻ケトラからの末裔。

*交易の要衝にあったオアシスの町

➔ここまで逃れてきた者たちが!!

最盛期のバビロンの力がよく分かる。



バビロンの裁き ケダル イザヤ21:16~17

まことに、主は私にこう言われる。「雇い人の年季のように、もう一年でケダル*のすべての栄光は尽きる。

ケダル人の勇士たちで、残る射手は数少なくなる。」まことに、イスラエルの神、【主】が告げられる。

*イシュマエル12部族の一つ。砂漠の民。

→砂漠の略奪者として恐れられた。

■ 神の裁きの器として用いられる

バビロニアの恐ろしい力、勢力の表れ。





Ⅲ. ユダへの裁き

イザヤ書22章

幻の谷・エルサレム

南王国ユダへの段階的裁き

① 北王国とアラムの侵略 (BC735)

→ アハズ王にイザヤはユダの守りを宣告。

② 北王国滅亡、アッシリア捕囚 (BC722)

③ アッシリアのエルサレム包囲 (BC701)

→ ヒゼキヤ王にイザヤが告げた通り、
アッシリア包囲軍は敗退。急遽退却。

④ エルサレム陥落。バビロン捕囚 (BC567)

間近な脅威

決定的な滅び



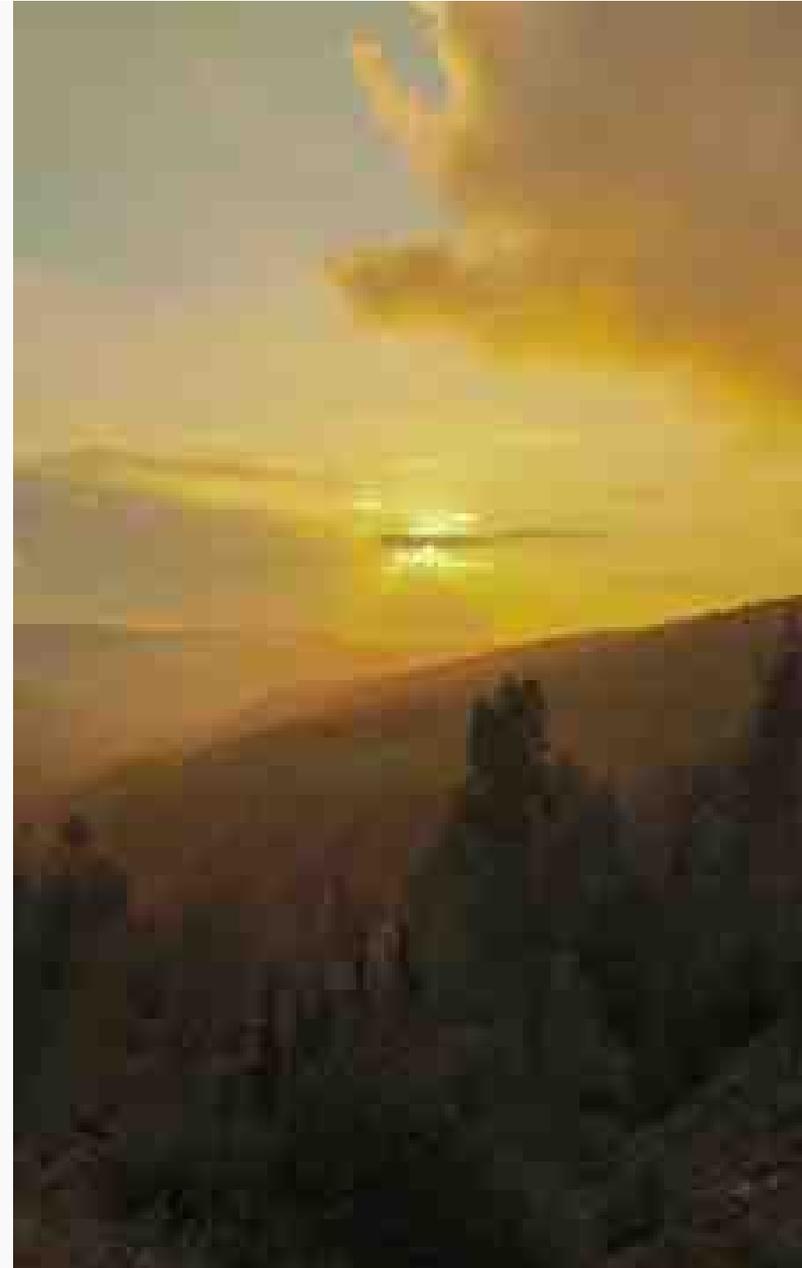
ユダの裁き 幻の谷 イザヤ22:1~2

幻の谷*についての宣告。これは、いったいどうしたことか。みな屋根に上ったりして。喧噪に満ちた騒がしい町、おごった都よ。おまえのうちの殺された者たちは、剣で刺し殺されたのでもなく戦死したのでもない。

*三方を谷に囲まれたエルサレム

→強固な守りも風前の灯火に!!

■ついにアッシリア軍が攻め込んでくる!!



ユダの裁き 混乱 イザヤ22:3~4

おまえの首領たちは、こぞって逃げたが、弓を引かないうちに捕らえられた。おまえのうちの見つけられた者は、遠くへ逃げ去ったが、みな捕らえられた。

それゆえ、私は言う。「私から目をそらせ。私は激しく泣きたい。私の民、この娘の破滅のことで、無理に私を慰めるな。」

- 敵前逃亡の末に捕らえられた首領たち。
→これ以上ない不名誉。そして不信仰。
- イザヤの目に映るのは、さらなる悲劇。



ユダの裁き 恐慌 22:5～6

なぜなら、**恐慌と蹂躪と混乱の日***が、万軍の【神】、主から来るからだ。幻の谷には、城壁の崩壊、山に向かっての叫び。

エラム*は矢筒を負い、戦車と兵士と騎兵を引き連れ、**キル***は盾の覆いを外した。

■ アッシリアの侵略を飛び越えて、

バビロン捕囚*の出来事が記されている。

*バビロン東方の同盟国。 *エラムの首都



ユダの裁き 包囲 イザヤ22:7~9

おまえの最も美しい平地は戦車で満ち、騎兵は城門に立ち並んだ。

こうして主はユダの覆いを除かれた。その日、おまえは森の宮殿の武器に目を向けた。

おまえたちはダビデの町に破れが多いのを見て、下の池の水を集めた。

- 侵略者の圧倒的な軍勢を前に、無力さを思い知らされるエルサレムの様子。
➔ 慌てふためいて戦いの備えをするが…。



ユダの裁き 水道 イザヤ22:10~11

また、エルサレムの家々を数え、その家々を取り壊して城壁を補強し、二重の城壁の間に貯水池を造って古い池の水を引いた*。しかし、おまえたちはこれを造った方には目もくれず、遠い昔にこれを形造った方に目を留めなかった。

*ヒゼキヤは城壁外のギホンの泉を、岩盤を掘った大工事で都の中に引き込んだ。

■主が問われるのは、人間的功績ではなく、
工事にあたった者たちの**信仰の本質!!**



ユダの裁き 開き直る民 イザヤ22:12~13

その日、万軍の【神】、主は呼びかけられた。
「泣いて悲しみ、頭を剃って粗布をまとえ*。」

しかし、なんとおまえたちは浮かれ楽しみ、牛を殺し、羊を屠り、肉を食べ、ぶどう酒を飲んで言っている。「飲めよ。食べよ。どうせ明日は死ぬのだ」と。

*屈辱と嘆き、悔い改めを象徴する行為。

■滅亡目前でも、開き直って主に立ち返らない。

➔多くの罪人の現実の姿。



ユダの裁き 咎 イザヤ22:14~15

万軍の【主】は私の耳に宣告された。

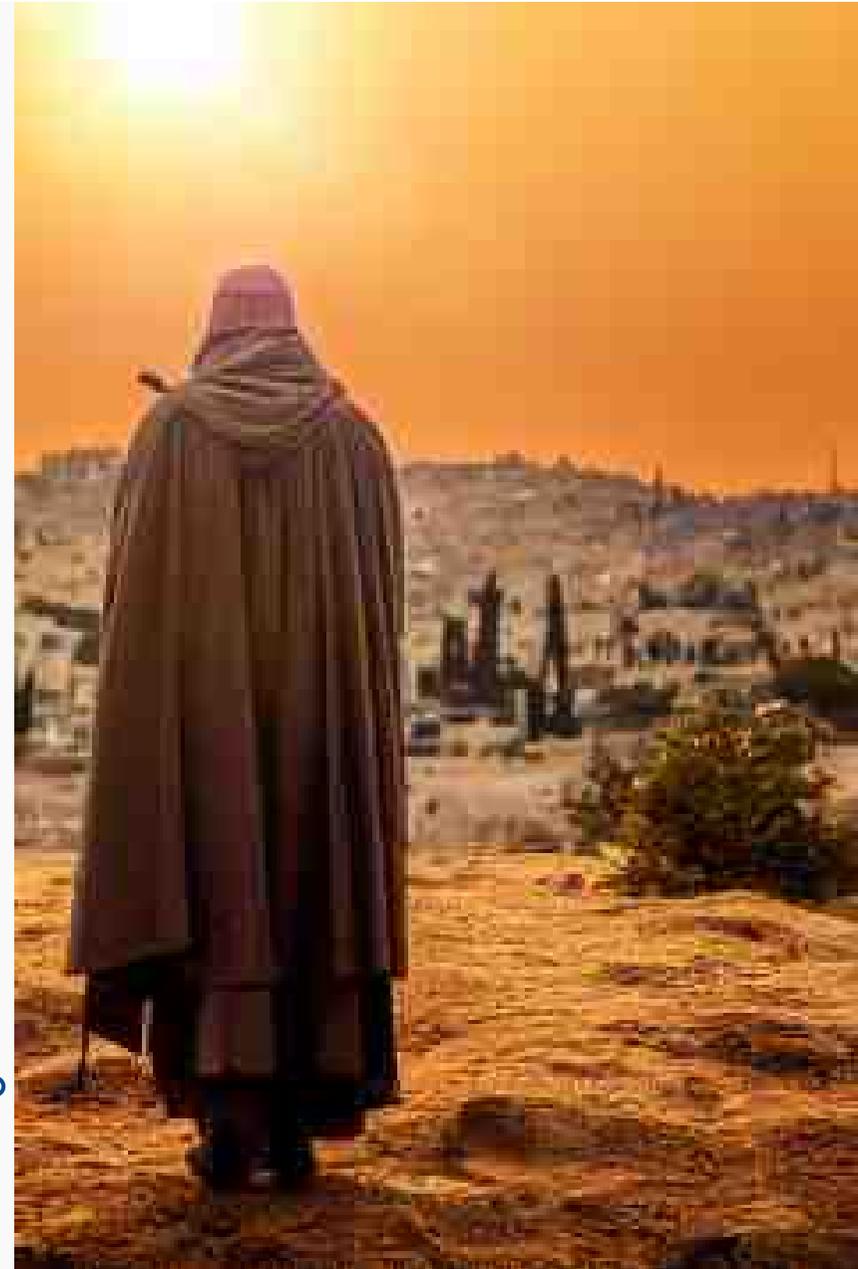
「この咎は、おまえたちが死ぬまで決して赦されることはない*。」万軍の【神】、主はそう言われた。

万軍の【神】、主はこう言われる。「さあ、宮廷をつかさどるあの執事シェブナ*のところに行け。」

*アッシリアの侵略は免れるが…。

その先のバビロン捕囚は逃れようがない。

*当時の書記(II列18:18,イザヤ36:11)



ユダの裁き 執事の墓 イザヤ22:16

『あなたは自分のために、ここに墓を掘った*。ここはあなたに何の関わりがあるのか。ここはあなたのだれに関わりがあるのか。高いところに自分の墓を掘ったり、岩に自分の住まいを刻んだりして。』

*権力を誇示する墓…シェブナの影響力



ゼカリアの墓(と呼ばれる)

ユダの裁き 最期 イザヤ22:17~18

ああ、勇者よ。【主】はあなたを遠くに投げやる。あなたをわしづかみにし、あなたをまりのように丸めて、広々とした地に投げ捨てる。そこであなたは死ぬ。そこであなたの誇る戦車も。あなたの主人の家の恥さらし*よ。

*主人ヒゼキヤは偉大な善王だったが…。

→腐敗し、不信仰に陥っていた周囲

■アッシリア侵略時には、うろたえるだけだったシェブナ。最期は権力も失う。



ユダの裁き 後釜 イザヤ22:19~21

わたしがあなたをその立場から追放する。
あなたは自分の地位から引き降ろされる。

その日、わたしはわたしのしもべ、**ヒルキヤの子エルヤキム***を召し、彼にあなたの長服を着せ、彼にあなたの飾り帯を締め、彼の手にあなたの権威を委ねる。彼はエルサレムの住民とユダの家の父となる。

*“神が上げられる”

ヒゼキヤの重臣・宮廷長官(Ⅱ列18:18)

➔シェブナに代わり重用される。



オリーブの古木

ユダの裁き **ダビデの鍵** イザヤ22:22~23

わたしはまた、彼の肩にダビデの家の鍵を置く*。彼が開くと、閉じる者はなく、彼が閉じると、開く者はない。

わたしは彼を杭として、確かな場所に打ち込む。彼はその父の家にとって栄光の座となる。

***ダビデ王家を支える最重要の任務に!!**



ユダの裁き 興亡 イザヤ22:24~25

彼の上に、父の家のすべての栄光がかけられる。子も孫も、すべての小さい器も、鉢からすべての壺に至るまで。

その日 一万軍の【主】のことは一確かな場所に打ち込まれた杭は抜き取られ、折られて落ち、その上にかかっていた荷も取り壊される。—【主】はそう語られた。』」

■ 一族の末端にまで繁栄をもたらしたエルヤキムの名声も束の間。

→ ユダの滅亡で全ては失われる。

時代の権力者も
神の裁きの
引き立て役

神殿の崩された石





IV. まとめと適用 真実を極められる方をこそ恐れよう

究極的にダビデの鍵を握る方は？

■ 黙示録3:7

また、フィラデルフィアにある教会の御使いに書き送れ。『聖なる方、真実な方、**ダビデの鍵**を持っている方、彼が開くと、だれも閉じることがなく、彼が閉じると、だれも開くことがない。その方がこう言われる一。』

■ **栄光のキリスト**が、ユダヤ人を信仰者と偽善者により分ける。

信仰者は、大患難を免れ、来たるべき神の国の都に名を記される。

「わたしは彼の上に、わたしの神の御名と、わたしの神の都、すなわち、わたしの神のもとを出て天から下って来る新しいエルサレムの名と、わたしの新しい名とを書き記す。黙示録3:12」

異邦人の究極的な選り分け

- ① **肉体の死** → 永遠の滅びか。永遠の救いか。
 - ② **携拳** → 真の信仰者は、栄光の姿で一瞬の内にキリストの元に!!
 - ③ **大患難** → 御国の福音を信じ、真実のユダヤ人の側に立つ(羊)
メシアを拒み通し、ユダヤ人を迫害し裁かれる(ヤギ)
- 私たちの人生は、**選り分けられていく過程**そのもの。
地域教会にあって、真実に立つほど、偽善は暴き出されていく。

預言が暴き出した、信仰の選り分け

■ アッシリア侵略の危機が暴き出した、**信仰の真実**。

➔ 書記シェブナの偽善。宮廷長官エルヤキムの信仰。

■ 試練が浮かび上がらせる、**真実と偽りの信仰**がある。

危機に際して、偽善は役立たずどころか、信仰共同体の害悪だ。

■ 主に仕えたヒゼキヤの足元で起こっていた、部下の**信仰の選り分け**。

同様のことは、私たちの地域教会でも起こり得ると心得よう。

■ 祈り、勧め、時に懲戒を必要とすることもあるが、

思い知らされるのは、**他者の選択に誰も介入できない**ということ。

真実？ 偽りか？

■ 預言が突きつけるのは、**二つに一つの選択**。

→ 唯一の神に信頼するか？ それ以外に信頼するか？

■ 神の裁きの結末は、**永遠の滅びか、永遠の救い**。

→ 主が、すべてに白黒をつける。グレーゾーンは、一切ない。

■ すべての人が突きつけられる、**二つに一つの結末**

→ その信仰は、本物か？ 偽物か？

→ 主に信頼するのか？ 主以外の偽りに信頼するのか？

→ 救われるのか？ 滅びるのか？

★ 産みの苦しみの時代の信仰者の歩み方 ★

- ユダの危機に、信仰者エルヤキムの家すら吹っ飛ばされた。神の裁きを前にしては、誰もが、己の無力を痛感させられるだけ。
- 私たちの誰もが、産みの苦しみの時代の波に溺れている。まずは、自分自身を堅く信仰に立たせよう。他者に手を差し伸べられるのは、それからだ。
- 自分の罪を見つめ、過信せず、謙遜であろうとするならば、とにもかくにも、御言葉にしがみつき続けるしかないと教えられる。満身創痍で、それでも強くさせられていくのが、真のリーダーだ。

世に遣わされよう。宣教の困難が、私を謙遜に用いてくれる

「^{てん}天のお父^{とう}さま。わたしは、あなたに^{そむ}背き、^{つみ}罪を^{かさ}重ねてきました。
^{ひび}日々^{おか}犯してしま^{つみ}う罪をも^{こくはく}告白します。この^{つみ}罪をゆるしてください。

わたしは、^{かみ}神のみ子^こイエス・キリストが、
^{つみ}あがな^{じゅうじか}し

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

^{はか}ほうむ

②墓に葬られ、

^{みつかめ}ふっかつ

③三日目に復活した^{しん}こと、を信じます。

^{しんこう}信仰と^{めぐ}恵みによって、^{しゅ}主が^{えいえん}永遠の^{すく}救いに^{まね}招き入れてくださいました。

^{しんじつ}真実に、この^{しんこう}信仰を^い生きる者としてください。

ただ、^{しゅ}主に^{しんらい}信頼し、^{かた}堅く^{みことば}御言葉に^た立たせてください。

^{ひと}一つの^{しんじつ}真実を^{かが}掲げ、^{ふくいん}福音を^つ告げ^し知らせる者として^{もの}遣わしてください。

^{しゅ}主イエス・キリストのみ名によって^な祈ります。 ^{いの}アーメン」